

2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年8月12日

東

上場会社名 株式会社ラバブルマーケティンググループ 上場取引所  
 コード番号 9254 URL <https://lmg.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 雅之  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 (氏名) 中川 徳之 (TEL) 03-4567-6399  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 ( )

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	353	—	△2	—	△3	—	△7	—
2022年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 △6百万円( —%) 2022年3月期第1四半期 —百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年3月期第1四半期	円 銭 △5.64	円 銭 —
2022年3月期第1四半期	—	—

(注) 1. 2022年3月期第1四半期においては四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期第1四半期の数値及び2023年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年3月期第1四半期	百万円 1,044	百万円 458	% 42.1
2022年3月期	1,326	464	33.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 439百万円 2022年3月期 447百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,742	25.5	205	2.5	201	7.3	122	34.4	87.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期(累計)での連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	1,402,525株	2022年3月期	1,402,525株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	一株	2022年3月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	1,402,525株	2022年3月期1Q	一株

(注) 2022年3月期第1四半期においては四半期連結財務諸表を作成していないため、当該四半期の期中平均株式数については記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている予想値は、現時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は内外の情報変化等により、本資料の数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、持ち直しの動きがみられるものの、感染再拡大の懸念やウクライナ情勢、物価上昇の影響により、依然として先行きは不透明な状況です。当社グループが事業を展開するマーケティング領域におきましては、従来からの市場成長に加え、オフラインからデジタルへの移行が加速しており市場環境は当社グループの事業に追い風となっております。

このような状況の下、当社グループでは「運用支援」、「運用支援ツールの提供」、「人材教育」といった当社グループ独自のソリューションを強みに、企業のマーケティング活動を総合的に支援してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は353,094千円、営業損失2,260千円、経常損失3,193千円、親会社株主に帰属する四半期純損失7,914千円となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりです。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「マーケティングオートメーション事業」から「DX支援事業」に変更しております。当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

#### (SNSマーケティング事業)

企業のSNSアカウントの戦略策定から開設、運用代行、キャンペーンの企画・運用、広告出稿、レポート作成、効果検証までサポートするSNSアカウント運用支援サービス、SNSマーケティングを効率化するSaaS型のSNS運用支援ツールの開発・提供をしております。また、これらのノウハウを活かしてコンテンツ開発をしたSNSエキスパート検定講座の提供をしております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、広告市場がオフラインからオンラインにシフトする中で、企業のデジタルマーケティングにおいてもSNSマーケティングの重要性は高まっており、(株)コムニコでは、創業初となるCMの放送開始による認知拡大やPinterestアドの活用支援サービス、インフルエンサーとのコラボレーション型広告配信サービス、SNS上での企業コラボを仲介する「コラボ先仲介サービス」、インフルエンサーキャスティングサービス「ツイビト」をリリースし、サービス拡充をしてまいりました。また、人員の採用に積極的に取り組み運用支援体制を強化しております。

(社)SNSエキスパート協会では、「SNSマーケティングははじめの一步 無理なく成果を出し続ける運用のコツ」を発売開始したほか、様々なウェブメディアへの寄稿やセミナーへの登壇により、SNSに関する知識の普及や安全な利用の啓発に取り組んだことにより、検定受講や法人研修の獲得を進めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高(「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含まない外部顧客への売上高(以下同じ))は330,648千円、セグメント利益は87,330千円となりました。

#### (DX支援事業)

マーケティングオートメーション、営業支援システム、顧客管理システムの3つのクラウドサービスを用いて、顧客の経営課題に沿った戦略策定やプロセスの設計、最適なテクノロジーの選定、運用サポートまでワンストップで支援しております。開発体制の強化のため事業提携を行うなど、Salesforceの運用サポートサービスの拡充と顧客開拓に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は22,446千円、セグメント利益は1,417千円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ324,102千円減少し958,911千円となりました。これは主に、現金及び預金291,613千円、受取手形及び売掛金43,154千円等の減少によるものです。固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ42,073千円増加し85,501千円となりました。これは主に、本社移転に伴う敷金の差入45,007千円等の増加によるものです。その結果、資産合計につきましては、前連結会計年度末に比べ282,028千円減少し1,044,412千円となりました。

#### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ265,683千円減少し427,613千円となりました。これは主に、買掛金62,225千円、未払法人税等80,839千円、未払金109,581千円等の減少によります。固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ10,332千円減少し158,368千円となりました。これは長期借入金が10,332千円減少したことによります。その結果、負債合計につきましては、前連結会計年度末に比べ276,015千円減少し585,981千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ6,013千円減少し458,431千円となりました。これは主に、利益剰余金が7,914千円減少したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期の通期の業績予想から変更はありません。なお、2023年3月期の連結業績予想に与える新型コロナウイルス感染症の影響は、軽微であると考えております。

本資料に記述されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではなく、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	863,913	572,300
受取手形及び売掛金	373,903	330,749
未収還付法人税等	7,955	7,669
その他	37,299	48,241
貸倒引当金	△59	△48
流動資産合計	1,283,013	958,911
固定資産		
有形固定資産	1,026	1,581
無形固定資産		
のれん	4,556	3,417
その他	1,230	1,084
無形固定資産合計	5,787	4,501
投資その他の資産	36,614	79,418
固定資産合計	43,428	85,501
資産合計	1,326,441	1,044,412

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	102,007	39,782
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	51,209	48,008
未払金	163,077	53,496
未払法人税等	81,659	819
賞与引当金	-	14,096
その他	95,343	71,410
流動負債合計	693,296	427,613
固定負債		
長期借入金	168,700	158,368
固定負債合計	168,700	158,368
負債合計	861,996	585,981
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	266,687	266,687
資本剰余金	241,237	241,237
利益剰余金	△60,558	△68,473
株主資本合計	447,366	439,451
新株予約権	2,940	2,940
非支配株主持分	14,138	16,039
純資産合計	464,444	458,431
負債純資産合計	1,326,441	1,044,412

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	353,094
売上原価	179,117
売上総利益	173,977
販売費及び一般管理費	176,238
営業損失(△)	△2,260
営業外収益	
受取利息	18
印税収入	110
講演料等収入	376
その他	0
営業外収益合計	506
営業外費用	
支払利息	914
為替差損	514
その他	11
営業外費用合計	1,439
経常損失(△)	△3,193
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,193
法人税、住民税及び事業税	891
法人税等調整額	1,928
法人税等合計	2,819
四半期純損失(△)	△6,013
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,901
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,914

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△6,013
四半期包括利益	△6,013
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△7,914
非支配株主に係る四半期包括利益	1,901

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

## 1 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

四半期連結財務諸表を作成していないため、記載しておりません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	SNSマーケ ティング事業	DX支援事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	330,648	22,446	353,094	—	353,094
セグメント間の内部 売上高又は振替高	80	1,528	1,608	△1,608	—
計	330,728	23,974	354,703	△1,608	353,094
セグメント利益 又は損失(△)	87,330	1,417	88,748	△91,008	△2,260

(注) 1. 調整額は以下のとおりです。

セグメント利益又は損失(△)の調整額△91,008千円には、セグメント間取引消去0千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△91,009千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

## 2 報告セグメントの変更に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「マーケティングオートメーション事業」から「DX支援事業」に変更しております。当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。